



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

証券コード：3741

2007年3月期中間決算 説明資料

2006年11月16日

< 目次 >

- **事業戦略**
- **中間決算概要**
- **通期業績見通し**
- **技術サービス別取組み状況**

事業戦略

セックの技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス			ソリューション ツール (その他)
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッド ソフトウェア	コアテクノロジー サービス	技術 アプリケーション	
モバイルネットワーク		携帯電話端末搭載 ソフトウェア 国際標準技術	基幹ネットワーク システム	RealtimePower シリーズ <i>air Look</i> <i>air Cube</i> <i>air SmartG</i> Karearea
ワイヤレス	携帯電話端末			
インターネット	車載端末 携帯情報端末	位置情報サービス技術 地上デジタル放送技術 ベクトル描画技術 XML	Webシステム	
社会基盤システム			位置情報サービス技術適用 交通(航空,ITS),放送 防衛,物流,医療	
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	オブジェクト指向 設計技術 ロボットソフトウェア 共通化技術	ロケット,人工衛星 天文関連システム	

セックの基本方針

QCD&I をスローガンとするお客様中心ビジネスの推進

- - - **QCD** (品質・コスト・納期) を窮め、**I** (イノベーション) で飛躍

■ **QCD** 対応力の更なる強化

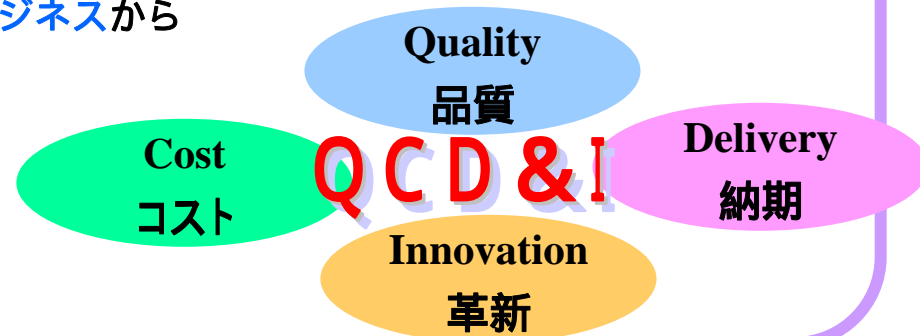
基本となるお客様満足度の獲得

■ **I** (イノベーション) により **IT** のメリットを提供

「**New Element to New System**」

- - 「**New Element**」による「**New System**」で不可能を可能に
それが最高のお客様満足度に、ビジネスの高付加価値化に繋がる

「**New Element**」を根っこに据えた**主体的ビジネス**から
ひいては**社員数に制約されない事業成長**へ



社員数に制約されない事業成長へ

「ニューエレメント」による主体的なビジネスで高付加価値化

研究開発・製品化活動で「ニューエレメント」の品揃え充実
コアテクノロジーサービスビジネス
製品適用リアルタイムソフトウェアビジネス

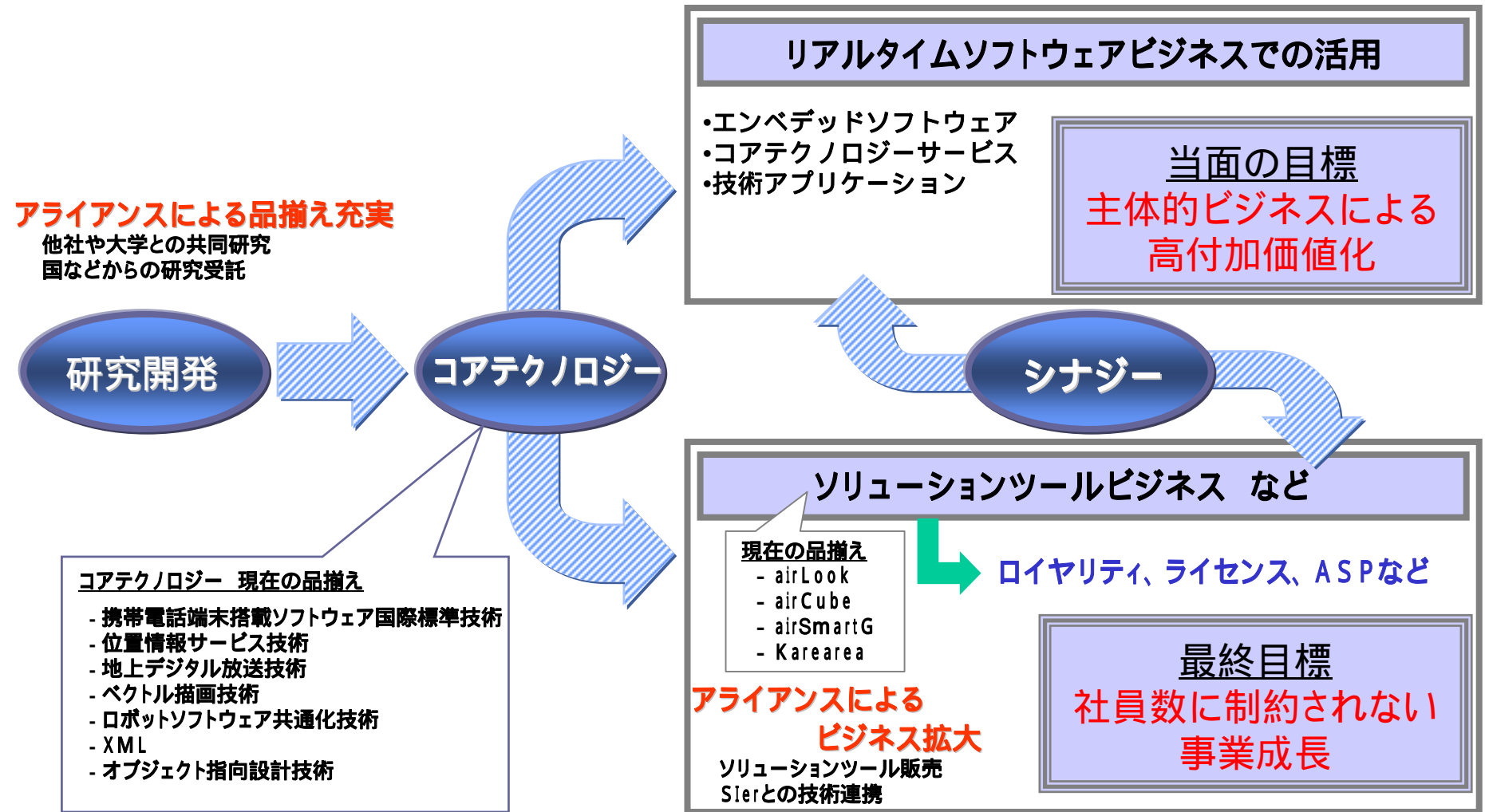
新たなビジネスモデルを追加

ライセンスビジネス
ロイヤリティビジネス
ASPなどストックビジネス

アライアンスを推進

ニューエレメントを充実するための他社や大学との共同研究
ソリューションツール販売での連携
営業面、技術面、製造面などでのwin-win連携

ビジネスモデルの変革



研究開発・製品開発

ユビキタス (Ubiquitous)

携帯電話端末ソフト国際標準技術
位置情報サービス技術
地上デジタル放送技術
ベクトル描画技術

ロボット (Robot)

ロボットソフトウェア共通化に向けた
活動及び研究

(日本ロボット工業会の派遣団の一員
としてOMGに参加,各種論文発表)

ITRのビジネス化に向けた活動
及び研究

NEDOからの委託研究

製品化・ビジネス適用

製品の強化とビジネス適用

位置情報サービス技術(airLook)
地上デジタル放送技術(airCube)
ベクトル描画技術(airSmartG)
ゼロ・レイテンシー(Karearea)

中間決算概要

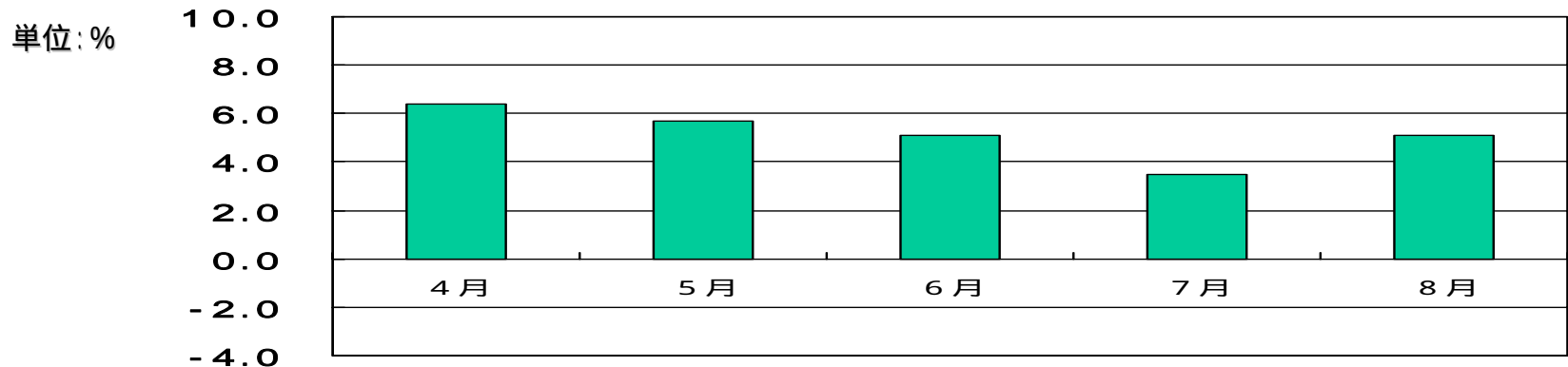
(2 0 0 7 年 3 月 期)

事業環境

2007年3月期中間の事業環境

売上高は06年4月より、5ヶ月連続で前年同期比増加となっており、IT需要は**全体的に堅調に推移**

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



商談量は豊富だが、お客様からの値引き要請は前期ほどではないものの継続し、**厳しいQCD改善要請**が依然として続いていた

Q:品質 C:価格 D:開発期間

2007年3月期中間の総括

中間期の成果

主体的ビジネスの核となるニューエレメントの品揃え充実

ベクトル描画技術の製品化完了(製品名: airSmartG)

今後の成長が期待できるワイヤレスBFとエンベデッドソフトウェアへのシフト
ニューエレメントによる競争優位が確保できる技術の開発案件が増加

中間期の留意事項

前年同期比「増収増益」だが、投資有価証券評価損の計上により純利益が
中間業績予想を未達

ニューエレメントによる主体的なビジネスの芽が出てきた期

損益計算書

単位:百万円

	2007年3月期中間	2006年3月期中間	前年同期比(%)
売上高	1,335	1,141	116.9
売上原価	946	839	112.8
売上総利益	388	302	128.3
販売管理費	277	233	118.7
営業利益 (営業利益率)	110 (8.3%)	68 (6.0%)	161.3 (2.3ポイント増)
経常利益	121	73	165.5
当期純利益	51	45	112.7

売上原価 社内稼働率が向上したことによる外注費の増加

販売管理費 位置情報サービス技術、地上デジタル放送技術、ロボットなど研究開発費が増加
社員教育費用の増加

営業外損益 NEDOからの補助金収入による増加

貸借対照表

単位:百万円

	2006年9月末日	2006年3月末日	増減
流動資産(百万円)	2,458	2,454	4
固定資産(百万円)	1,265	1,335	70
流動負債(百万円)	391	393	2
固定負債(百万円)	101	166	64
純資産(百万円)	3,230	3,230	0
総資産(百万円)	3,724	3,790	66
自己資本比率	86.7%	85.2%	1.5%
流動比率	627.5%	623.4%	4.2%
固定比率	39.2%	41.4%	2.2%

固定資産の減少 投資有価証券の減損処理などによる減少

固定負債の減少 役員退職金の支払いによる減少

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2007年3月期中間	2006年3月期中間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	76	93	170
投資活動によるキャッシュ・フロー	28	25	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	48	50	2
現金及び同等物の増減額	153	17	171
現金及び同等物期末残高	1,479	1,664	185
参考)長期性預金	600	400	200
参考)現預金 + 長期性預金	2,079	2,064	15

営業キャッシュ・フロー 業績改善により売上債権の増加、法人税等の支払いにより減少

投資キャッシュ・フロー 主に無形固定資産の取得によるもので、大きな変動はなし

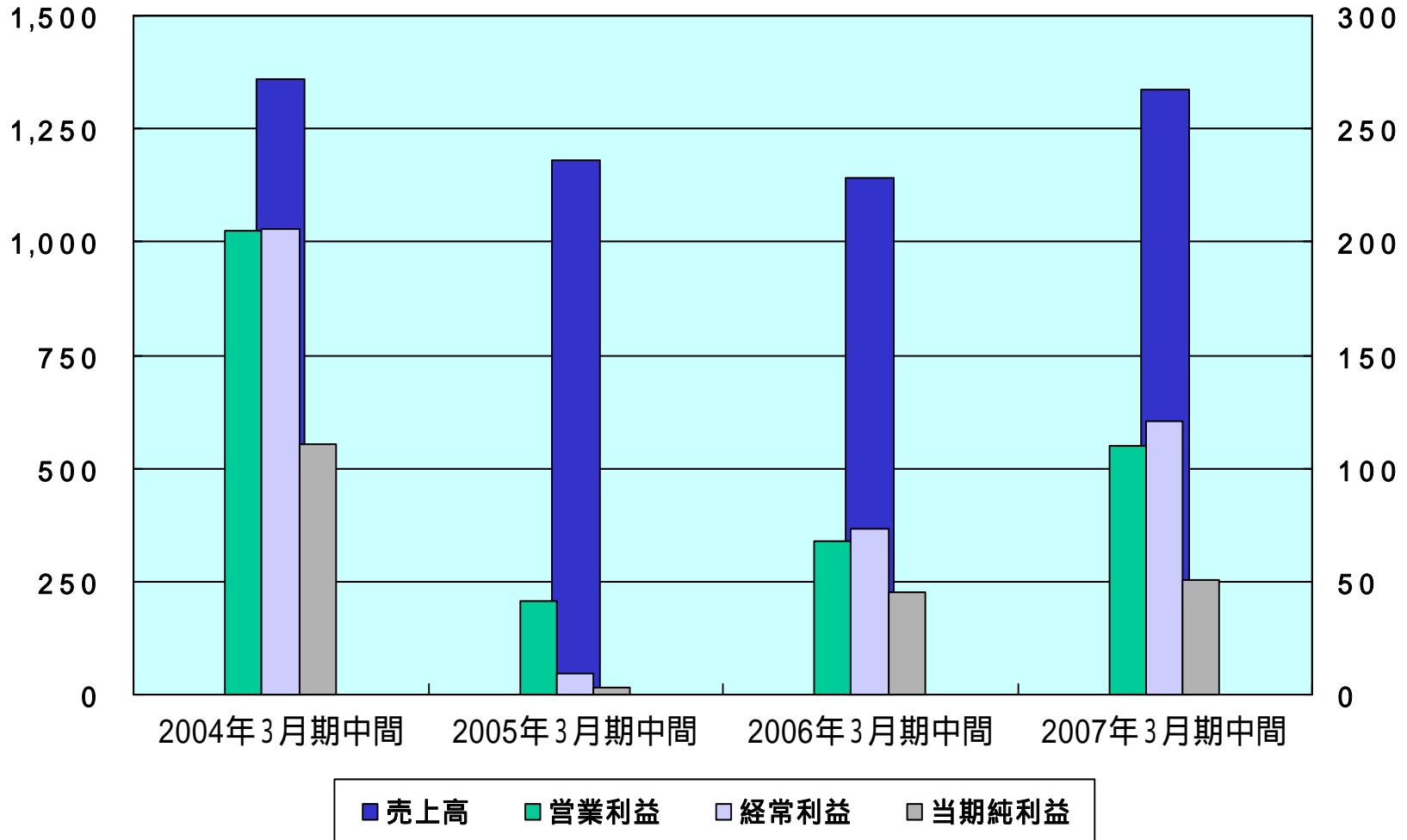
財務キャッシュ・フロー 主に配当金の支払いによるもので、大きな変動はなし

中間決算業績推移

売上高

利益

単位:百万円



B F 別の状況

ビジネスフィールド	2007年3月期中間		2006年3月期中間		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	118	8.9	212	18.6	56.1
ワイヤレス	747	56.0	517	45.2	144.5
インターネット	216	16.2	232	20.4	92.9
社会基盤システム	117	8.8	55	4.9	210.6
宇宙先端システム	125	9.4	122	10.8	101.7
その他	10	0.7	0	0.1	1336.7
合計	1,335	100.0	1,141	100.0	116.9

モバイルネットワーク
ワイヤレス
インターネット
社会基盤システム
宇宙先端システム
その他

基幹ネットワーク技術アプリケーション案件減少
地上デジタル放送関連を中心とした豊富な商談
商談は豊富、大型の技術アプリケーション切替
業績安定化に向けた慎重な受注判断を継続
大型案件開始の遅れ
Karearea,airLook,airCubelにairSmartGが追加

売上高は大幅減少、利益面は堅調
売上高は大幅増加、利益面は改善
売上高は減少、利益面は堅調
売上高は大幅増加、利益面は不調
売上高は微増、利益面は堅調
商談対応中心

技術サービス別の状況

技術サービス	2007年3月期中間		2006年3月期中間		前年同期比 (%)
	売上高(百万円)	構成比(%)	売上高(百万円)	構成比(%)	
エンベデッドソフトウェア	801	60.0	593	52.0	135.1
コアテクノロジーサービス	141	10.6	193	16.9	73.2
技術アプリケーション	381	28.6	354	31.0	107.8
ソリューションツール	10	0.8	0	0.1	1336.7
合計	1,335	100.0	1,141	100.0	116.9
コアテクノロジー合計 (エンベデッドと技術アプリも含む)	374	28.0	283	24.8	132.2

エンベデッドソフトウェアの構成比率がさらに増加

コアテクノロジーが実用段階に入り、エンベデッドソフトウェアと技術アプリケーションに移行

中間期末（2006年9月末日）の状況

ビジネスフィールド	2007年3月期中間		2006年3月期中間		受注残高 前年同期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	
モバイルネットワーク	115	97	163	94	103.3
ワイヤレス	944	347	559	231	149.7
インターネット	281	153	340	197	77.6
社会基盤システム	86	21	108	53	40.6
宇宙先端システム	194	88	114	38	232.0
その他	25	17	0	0	11693.3
合計	1,647	726	1,286	615	118.0

商談は豊富で稼働率も高く、受注残高が前期を18%上回り、下期の立ちあがりは悪くない
ワイヤレスBFは、上期に引き続き好調、宇宙先端システムBFは復調の気配

通期業績見通し (2007年3月期)

2007年3月期重点テーマ / 変更なし

景況認識

- IT需要は、伸び率は大きくはないものの、**全体としては拡大**
- 事業環境は、**需要は堅調**と予想しているが、今までのQCDに**セキュリティ**要求が加わると予想している。
需要は、ほぼ予想どおりの展開で堅調、社内での作業のためセキュリティ設備を強化した。

重点テーマ - - - 企業価値を高め、信頼回復

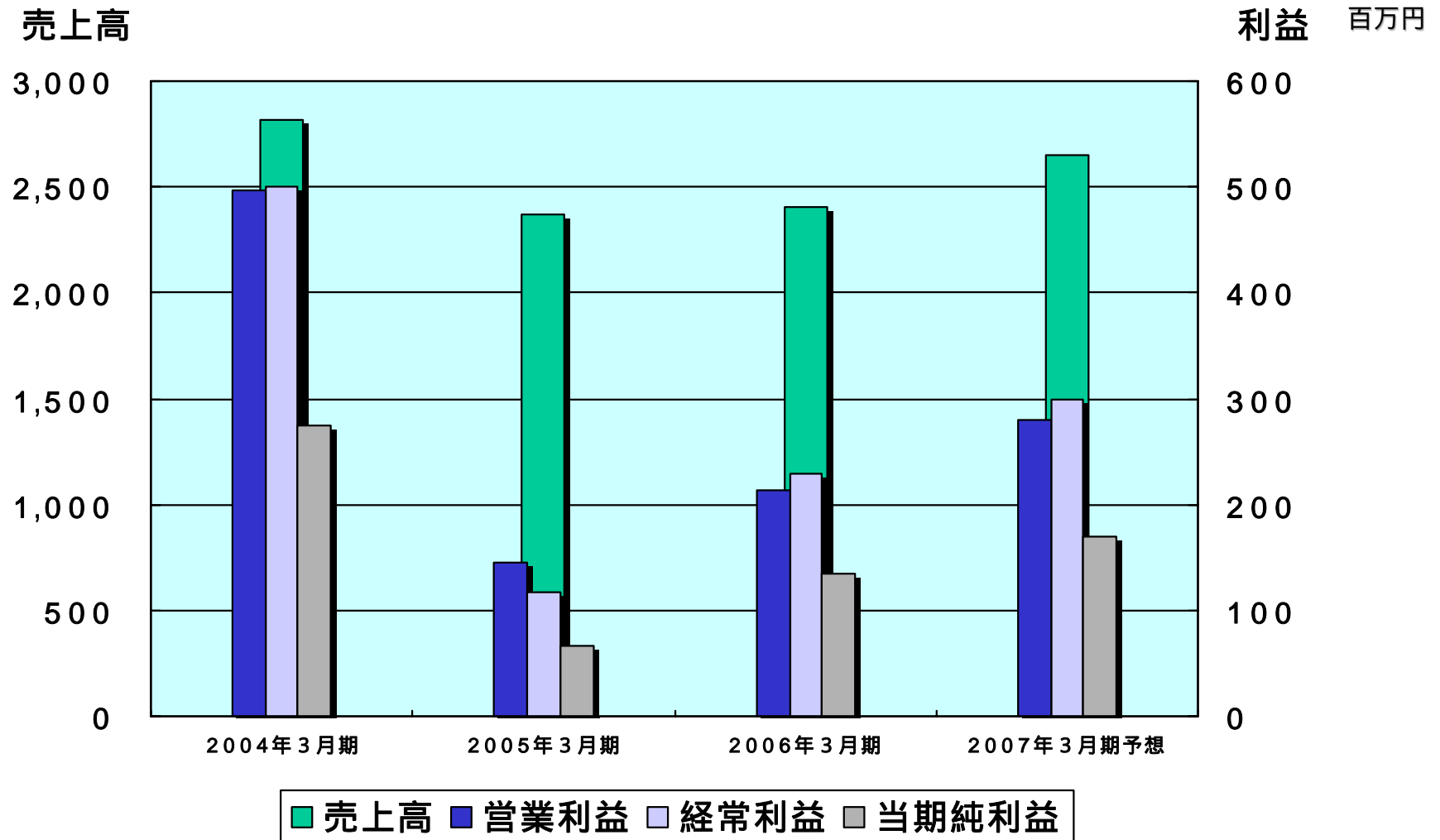
- 品質にこだわり、**不採算プロジェクトを発生させない**。
前期から引き続いた案件はあったものの、新たに大きな不採算案件は発生していない。
- 「ユビキタス」を中心テーマとする主体的なビジネスで**新たな成長曲線**をスタートさせること。
一部で成果が出てきているが、継続的に対応していく。

2007年3月期業績見通し / 変更なし

単位:百万円

	2007年3月期 見通し	2006年3月期 実績	前年同期比 (%)
売上高	2,650	2,407	110.1
売上原価	1,850	1,774	14.3
売上総利益	800	632	126.6
販売管理費	520	417	124.7
営業利益 (営業利益率)	280 (10.6%)	214 (8.9%)	130.8 (1.7ポイント増)
経常利益	300	229	131.0
当期純利益	170	135	125.9

通期業績の推移



2007年3月期BF別業績見通し

モバイルネットワークBF

主力の移動体通信事業者向けコアテクノロジーサービスは、要素技術開発の拡大が見込まれるが、基幹ネットワーク関連技術アプリケーションは減少、全体としては**減少傾向** **変更なし**

ワイヤレスBF

既存取引先に新規取引先との取引が加わり、新要素技術の継続案件も受注好調で携帯電話端末のエンベデッドソフトウェアビジネスは**拡大傾向** **変更なし**

インターネットBF

地上デジタル放送技術、ベクトル描画技術での案件受注、技術アプリケーションの拡大により**拡大傾向**
中間では減少したが、下期は増加傾向にある

社会基盤システムBF

社会インフラ更新技術アプリケーション商談は慎重に受注判断を継続、位置情報サービス技術関連の技術アプリケーションを加え、業績成長の安定化を優先し**現状を維持** **変更なし**

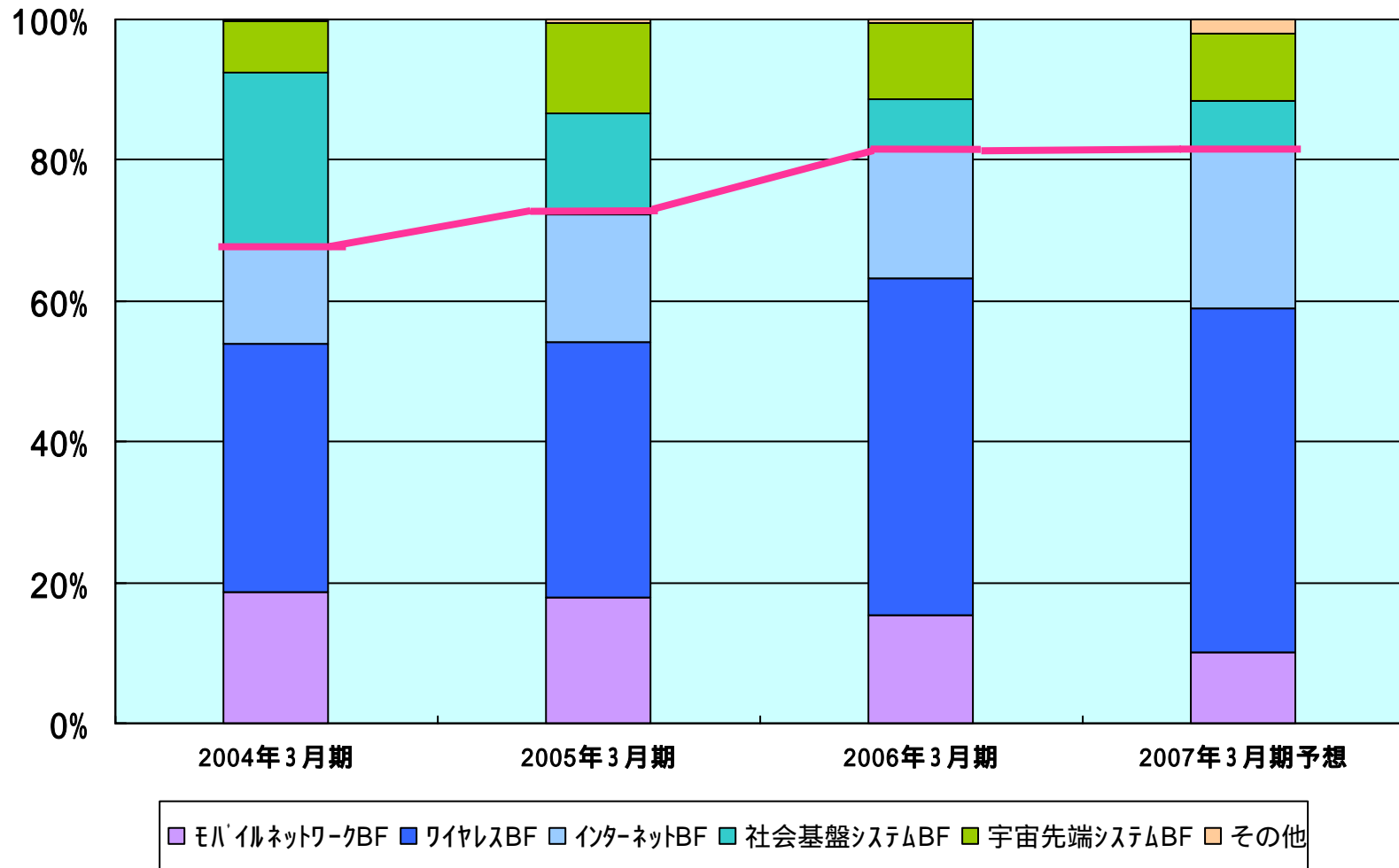
宇宙先端システムBF

ロケット打ち上げは成功したが商談の立ちあがりが遅い、ロボット案件も加わるが、業績的には**現状を維持** **変更なし**

その他（ソリューションツールなど）

Karearea に、位置情報サービス技術、地上デジタル放送技術が加わり、**拡大傾向**
中間期にベクトル描画技術が加わり、下期は増加傾向にある

BF別売上高比率の推移見通し



技術サービス別取組み状況

ビジネスの取組み状況

■ リアルタイムソフトウェア

- ▶ 主力ワイヤレスBFが堅調で地上デジタル放送関連案件が増加

■ ソリューションツール

▶ 位置情報サービス

air Look

- ▶ 豊富な商談量、ASP化などを準備中

▶ 地上デジタル放送技術

air Cube

- ▶ 製品採用の実績ができ、次への展開中

▶ ベクトル描画技術

air SmartG

- ▶ 製品が完了し、次のビジネス展開を準備中

▶ 超高速インメモリデータベース

Karearea

- ▶ 宇宙分野での商談への展開を検討

主力BF - - ワイヤレスBF事業方針

売上高推移

	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期 中間決算	2007年3月期 (予)
売上高(百万円)	991	862	1,154	747	1,295
全社に占める割合(%)	35.2	36.4	48.0	56.0	48.9

中間期のビジネス環境

ナンバーポータビリティや新機能搭載などで需要は堅調であった。

地上デジタル放送技術などのコアコンピタンスが活きる

下期も同様な傾向と予想

ビジネス拡大に向けた課題(リスク)

携帯端末ベンダー同士の提携や海外向け携帯端末の撤退・進出などによる計画変動

携帯電話の高機能化により開発規模が巨大化し、品質問題が発生しやすくなっている

需要に対して、技術者不足、外注可能範囲が狭く稼働率が高い、緊急時の対応が不足

複数取引先に同系統技術を供給することから、セキュリティ要求が強く情報漏洩対策が必要

方針

コアコンピタンスを核とした主体的ビジネスで、競争優位の確保と維持

実効あるI S M S (ISO/IEC27001)の運用、セキュリティルーム増設など、情報漏洩対策の強化

air Look は

位置情報サービスを実現するプラットフォーム製品です。

位置情報サービス (L B S) = G I S (地理情報システム) + G P S (全地球測位システム)

特徴 オープン素材を活用 既存のGISと連携可能 通信コストを抑え、小さなセンタシステム

air Look リリース 2005年10月

air Look 採用実績 (前期)

- 防災システム (国土交通省関東地方局荒川下流河川事務所が主催する防災訓練で使用)
- 除雪排雪車運行管理システム (地方自治体)
- 緊急停止命令伝達システム (鉄道会社)

air Look のビジネス

- 製品ライセンス + カスタマイズ
製品ライセンス + システム開発 (システム開発の規模は、製品の2倍から20倍)
- アライアンスの推進
商談開拓は「独自の営業」と「KDDIとの連携」で推進中

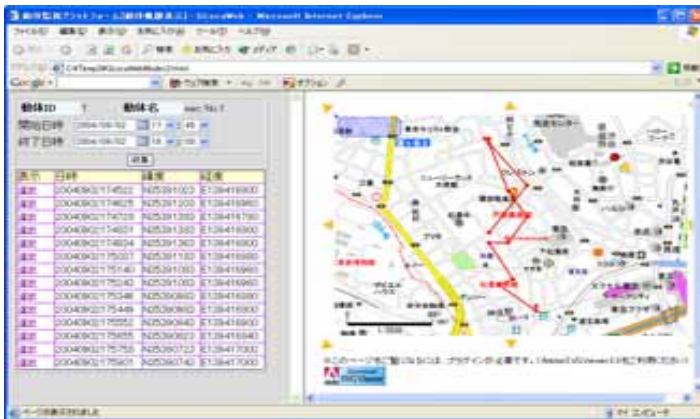
air Look 進捗状況 当中間期開発中案件 3 件— 防災、安全など複数案件提案中

- フリーライドバス (バス会社)
- 警備員ナビシステム (警備会社)
- 運送動態管理システム (運送会社)

air Look ASP 事業化研究 (シリーズものの展開)

- 幼稚園バスで実証実験中
- スイミングスクール試運用開始予定

適用事例



安否確認機能付
災害情報管理システム

除排雪車ロケーションシステム



air Cube は

地上デジタルテレビ及びラジオ放送と通信の連携を可能とする技術です。

air Cube リリース 2006年3月

- Aプロファイル、Cプロファイル、P2プロファイル、ハイブリッド対応のBMLブラウザ
- デコーダ (DMUX,PSI/SI,DSM-CC等)

air Cube 搭載対象機器

- PC向け地上デジタルTV受信カード / 地上デジタル家電 / 携帯電話他
- 地上デジタル音声放送対応放送業務用受信機

air Cube のビジネス

- ライセンス&ロイヤリティ、カスタマイズ ビジネス
開発ライセンス (SDK : Software Development Kit) の販売
特定のAPI (Application Program Interface) やプラットフォーム、
プログラム におけるソフトウェア開発のためのツール集の販売
- コンサルティングビジネス、試験ツールビジネス
- 上記を包含した地上デジタルテレビ/ラジオアプリケーションの受託開発
- コンテンツ制作支援 (オーサリングツール、PCビューア等)

air Cube ビジネスの進捗状況

- 地上デジタル音声放送（ラジオ）対応業務用標準機（実績）
TBSラジオ & SK ネットが共同開発した業務用標準受信機に**採用**
- 地上デジタルTV受信カード向け（実績）
SK ネットのワンセグPCカードに採用、OEM先としてDELLにも**採用**
- デジタル家電向け
デジタル家電プラットフォームベンダ向け試作機への搭載を準備中
- 携帯端末メーカー向け
携帯電話メーカー向け携帯電話への搭載を完了
携帯電話プラットフォームへの搭載を検討中
- デジタル放送試験装置メーカー向け
デジタル放送試験装置試作機への搭載を準備中

air SmartG は

SVG (Scalable Vector Graphics) データを忠実にレンダリングする技術です。

air SmartG リリース 2006年8月

KDDI とライセンス契約を締結、SVG 製品ファミリーとして**販売開始**

air SmartG 搭載対象機器

PC / 携帯電話 / 車載端末 / 情報家電 / 街角案内表示板など

air SmartG のビジネス

- カスタマイズビジネス
SVG 技術を活かしたアプリケーションの受託開発
- コンサルティングビジネス
コンテンツ制作及び各種コンテンツ変換サービスなど
- ライセンス & ロイヤリティビジネス
開発ライセンス (SDK : Software Development Kit) の販売

air SmartG のビジネスの進捗状況

- 東京電力：デジタル地図案内板に採用
- 携帯電話及びPC関連ビジネスを推進中
(長年培ってきたSVG技術を活かし、SVGマップコンソーシアムなどで、SVG電子地図及びSVGビューアの普及に向けて積極的にビジネスを展開)

適用事例

KDDI: EZドキュメントビューアーに採用



ストリートボード実証実験に採用



Kareareaは、世界最高速レベルのXML検索性能を発揮するだけでなく、業界で初めてXMLによる高速多次元集計を実現した、全く新しいタイプのXMLデータベース製品です。

XML適用の広がり

- **企業間取引**
 - ▶ RosettaNet
 - ▶ cXML
 - ▶ Webサービス
- **財務情報**
 - ▶ XBRL
- **放送**
 - ▶ BML
- **新聞**
 - ▶ NewsML
- **地図情報**
 - ▶ G-XML
- **マルチメディア**
 - ▶ SMILE
 - ▶ SVG
 - ▶ MPEG-7
- **音声**
 - ▶ VoiceXML
- **バイオ**
 - ▶ BSML
- **化学**
 - ▶ CML
- **数式**
 - ▶ MathML
- **RFID**
 - ▶ PML
- **医療**
 - ▶ MML
- **放送・新聞**
 - ▶ BML
 - ▶ NewsML
- **観光**
 - ▶ TravelXML
- **電子出版**
 - ▶ JepaX

大量のXMLデータを高速に処理する必要性

Kareareaの特徴

- ▶ 数百万ノードからの検索、ソート、集計がミリ秒オーダー
- ▶ チューニング不要、インデックス不要
- ▶ XMLによる最大4次元までの高速多次元集計
- **高機能**
 - ▶ ユーザ定義関数による高度な検索・集計
 - ▶ RDB感覚のソート、多段階絞り込み検索、検索結果の結合
 - ▶ 付属GUIツールによる定型業務構築
 - ▶ RDB連携、データの一括ロード/セーブ
 - ▶ 分散データベース機能
 - ▶ 開発用Java API



Kareareaの主な適用実績

特許情報統計システム
衛星観測データリモートモニタシステム
製品原価計算システム
世論調査アンケート集計システム
衛星テレメトリデータ分析(論文発表)
官公庁向け変更・構成管理システム
博物館システム

太陽観測衛星統合データベースシステム
衛星観測データベースシステム
仮想天文台データベースシステム
製造業向け設計支援システム
電子番組表システム
商品企画データベースシステム

この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、見通し、戦略など、及び将来の業績に関する見通しが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“ Realtime@net ”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03 - 5458 - 7727